

# Slovenia Monthly January 2021

## スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2021年2月4日



### ～1月の主なポイント～

- 内 政： 政府不信任動議、議会に提出されるも、一時撤回
- 外 政： ロガル外相、EU外務理事会に出席
- 経 済： リュブリャナ・コチャウイエ間鉄道、半世紀ぶりに再開
- コロナ： 政府、ワクチン接種戦略を発表  
英国型変異種、国内で初めて感染を確認
- 社 会： スキージャンプ団体のスロベニア女子代表チーム、W杯初優勝

## 政治

### 【内政】

#### ●野党、政府不信任動議を提出【15日】

15日、マリヤンシャレツ・リスト(LMS)、社会民主党(SD)、アレンカ・ブラトウシェク同盟(SAB)、左派(Left)の中道左派野党4党で構成される野党連合(KUL)及び年金者(DeSUS)は、ヤンシャ政権に対する不信任動議を議会に提出した。同動議ではエリヤヴェツDeSUS党首を首相候補として推薦しており、(国民議会定員90名の内)42名の議員が署名した。なお、DeSUS所属議員4名の内の1人であるシモノビッチ議員は同動議への署名を拒否した。同議員は、署名拒否の理由として、DeSUS所属のガンタル氏が最近まで保健大臣を務めていたため、現政権への不信任はDeSUSに対する不信任を意味するとして、そのような動議に署名することはできないと述べた。同議員は、(今後行われる)同動議への無記名投票における態度については、「国民の利益に従い投票する」と述べるに留まった。

エリヤヴェツDeSUS党首は、(不信任動議成立に必要な過半数に満たない)42票しか署名が集まらなかったことは残念だが、国が軌道を外れていくのを止める必要があり、不信任動議の成功を確信していると述べた。また、同党首は、司法、検察、警察機関等

への介入、報道の自由に対する侵害など、憲法原則の侵害を防ぐ必要があると述べたほか、スロベニアの国際的地位は(スロベニアが独立した)30年前とは大きく異なっており、現在のスロベニアのパートナーは法の支配に問題を有する国であり、スロベニアは欧州の中核から離れてしまっていると述べた。



合同記者会見を行う各野党党首

(Photo: Nebojša Tejić/ STA)

### ●内外情報庁長官の新型コロナウイルス感染、政府不信任動議の投票日程に影響【16日】

ウェブポータル「24ur」は、内外情報庁(SOVA)のストウシェク長官が新型コロナウイルスに感染したと報じた。同長官は、15日に国民議会インテリジェンス・安全保障委員会に出席していたため、同委員会に出席した議員9名が接触者として新型コロナウイルスの検査を受けることになる。議員が感染した可能性が発生したことを受け、1月20日に予定されている政府不信任動議に対する投票を行う議会の開催にも影響が生じることとなり、ゾルッチ国民議会議長は、19日に、各会派の院内総務会議で、本件について(20日に政府不信任動議への投票に係る会議を開催するかに関する)決定を行う予定であると述べた。

### ●政府不信任動議、一時取り下げ【19日】

19日、年金者党(DeSUS)のエリヤヴェツ党首は、(議会に提出していた)政府不信任動議を一時的に撤回した。同決定は、野党議員が新型コロナウイルスに感染し、また、数名の議員が検査結果を待っている状態であることを考慮して行われたもの。エリヤヴェツ党首は、当初の動議に署名した全ての議員が議会で投票を行える状態になったら、再び不信任動議を提出する予定であると述べた。現状の規則では、(記名投票の場合は)議員の遠隔投票は認められているが、今回は無記名投票のため、投票に際して議員本人が議場にいる必要がある。動議が撤回されたことで、今回の不信任動議に係る手続は一旦終了することになる。今後、政府不信任に係る投票を行う場合には、再度動議が提出される必要がある。

エリヤヴェツ党首は、病気、産休、外国出張中などの議員が遠隔でも無記名投票を行えるよう規則を変更する必要があると指摘し、国民議会がデジタル化を活用していないと批判しつつ、他方でそのような変更をすぐに行うことができないことを認識しているため、議員が揃った段階で動議を再び提出する予定であると述べた。同党首は、14日以内に再び動議を提出できることを期待すると述べた。

### ●コリトク公共行政大臣の新型コロナウイルス感染【20日】

コリトク公共行政大臣が新型コロナウイルスの検査で陽性となった。同大臣は自己隔離中で、症状は軽微であり、自宅で勤務を継続する。同大臣については、隔離が確認された同僚と前の週末に接触があり、最初の検査では陰性となったが、症状が出てきたため再検査したところ陽性が認められた。

### ●クラリに対する不信任動議【22日】

マリヤンシャレツ・リスト(LMS)、社会民主党(SD)、アレンカ・ブラトウシェク同盟(SAB)、左派(Left)の中

道左派野党4党で構成される野党連合(KUL)は、クラリ労働・家族・機会均等大臣の不信任動議を議会に提出した。同不信任動議の提出の理由として、新型コロナウイルス流行に際する介護施設に関する対応への失敗のほか、国のプロジェクトにおいて同大臣が共同設立者となっているNGOを入札で優遇したことなどが挙げられている。クラリ大臣は、感染防止のために介護施設に対してあらゆる措置を講じてきたと述べたほか、NGOに関する批判については、同大臣は同NGOではボランティア活動を行っており、金銭的利益はないと述べ、就任にあたり同NGOの役職はすべて辞めており、また、大臣として入札に影響力を行使したことはないとして反論した。



クラリ労働・家族・機会均等大臣

(Photo: Nebojša Tejić/ STA)

### ●野党議員が死去【30日】

30日、野党アレンカ・ブラトウシェク同盟(SAB)のフランツ・クラマル議員が死去した。享年60歳。同議員は、病気により長期間療養していた。同議員は、1994~1998年及び2004年~2018年にボヒニ市長を務め、2018年からSAB所属の国民議会議員を務めていた。

## 【外政】

### ●ヤンシャ首相、台湾衛生福利部長とビデオ会談【6日】

6日、ヤンシャ首相（保健大臣も兼務）は、保健大臣としての職務の下、陳時中・台湾衛生福利部長とビデオ会談を行った。両者は新型コロナウイルス対策に係る意見交換及びグッドプラクティスの紹介を行った。また、ヤンシャ首相は、昨年4月の台湾からのマスク寄贈に対し、謝意を表明した。

### ●米国連邦議会議事堂侵入事案に関するスロベニア要人の反応【6日】

米国連邦議会で発生した議事堂侵入事案に関し、パホル大統領は、大統領府を通じ、「米国民民主主義の象徴への攻撃を非難する。自分はいかなる暴力行為も非難する。米国上院・下院議長及び被害者の親族に対するお悔みを表明する」旨のプレスリリースを発表した。また、ヤンシャ首相は自身のツイッターにて、「ワシントンで発生している暴力に関し、すべての人が深く憂慮すべきである。アメリカの民主主義は強靱で、深く根付いており、この危機を克服することを願っている。民主主義は平和的な抗議を前提としているが、暴力と殺害の脅迫は常に過ちである」として、暴力行為を非難するコメントを発表した。その他、スロベニア外務省も同様に本事案の暴力行為を批判するプレスリリースを発表した。

### ●ロガル外相、フィンランドを訪問【14日】

14日、ロガル外相はフィンランドを訪問し、ハーヴィスト同国外相と会談を行った。会談において、ロガル外相は両国間の経済関係が強化されていることを歓迎したほか、西バルカン諸国に対する実効性のある拡大政策の提示を呼びかけるとともに、ITFのプロジェクトにおけるフィンランドとの協力の可能性につき指摘した。また、両者はEU・米国間関係の更なる強化の必要性につき一致し、米国との政治的対話及び協力の重要性につき指摘した。

また、ロガル外相は、トゥップライネン欧州担当相とも会談し、スロベニアのEU議長国就任に際する優先事項を説明したほか、ニーニスト大統領との会談では、二国間関係、EUやその他の国際機関における協力、米国、中国、ロシアとの関係についても意見交換を行った。

### ●スロベニア外務省、ロシアの野党指導者拘束を批判する声明を発表【17日】

スロベニア外務省は、ロシアの野党指導者であるナヴァリヌイ氏がロシア当局により拘束されたことを受け、拘束を批判する声明をツイッター上で発表した。声明は以下のとおり。

「我々はロシアの野党指導者であるアレクセイ・ナヴァリヌイ氏の即時の釈放を求める。野党政治家の自由な活動は、自由な民主主義世界の根幹である。」

### ●バイデン米大統領就任に際するスロベニア要人の反応【21日】

ヤンシャ首相は、米国でバイデン新大統領が就任したことを受け、祝辞を送ったことを明らかにした。ヤンシャ首相は、自身が首相を務めていた2005年にもブッシュ大統領就任に際して祝辞を送っており、今回も同様にバイデン大統領に祝辞を送ったと述べ、スロベニアと米国は当時も、そして今でもNATOにおける同盟国であると述べた。

一方、パホル大統領は、すでに米大統領選挙の結果が発表された際に祝意を表しているが、今回、あらためて祝辞を送るとともに、米国が気候変動に関するパリ協定への復帰及び世界保健機関（WHO）脱退の撤回を表明したことを歓迎するメッセージを発出した。

### ●ロガル外相、クロアチアを訪問【22日】

22日、ロガル外相はクロアチアへの実務訪問を行い、昨年12月29日に地震被害を受けたペトリニャを初めて訪問した。ホストであるクロアチアのグルリッチ・ラドマン外務・欧州問題相とともに、現場の状況を視察し、被災者に対する支援活動の状況を把握した。また、ロガル外相は、スロベニアが支援した仮設住宅に住む家庭を訪問した。

その後に行われたザグレブでの会談において、両者は、昨年行った会談を極めて肯定的なものとして評価し、新型コロナウイルス対応に係る協力を強調した。両者は、アドリア海におけるクロアチア、イタリア、スロベニアの3者間の協力についても意見交換を行い、2020年12月19日にトリエステで3か国外相が会談した際の合意事項へのコミットメントを表明した。ロガル外相は、クロアチアが2月上旬に予定している排他的経済水域（EEZ）宣言の発出は、今後専門家レベルの会合を実施予定のアドリア海における協力に係る協議に影響を与えるものではないと述べた。また、両者は、クロアチアのシェンゲン加盟をはじめとする欧州問題、西バルカン情勢等につき意見交換を行ったほか、ロガル外相はスロベニアのEU議長国期間中の優先事項の概要を説明した。

### ●ロガル外相、EU外務理事会に出席【25日】

25日、ロガル外相はEU外務理事会に出席した。出席者は、主にインド太平洋地域の課題と協力の可能性及びアジアの安全保障状況、気候・エネルギー外交、共通外交安全保障政策分野でのEUと英国の協力の可能性の3点に焦点を当てて議論を行った。

同理事会には茂木外務大臣もオンライン形式で出席し、茂木大臣は、①自由で開かれたインド太平洋

(FOIP)推進、②インド太平洋における安全保障への挑戦や民主主義・人権への挑戦等、③EUによるインド太平洋に関する議論開始への歓迎、④FOIP実現に向けた日EU協力等について発言した。また、出席者は、朝鮮半島、東シナ海及び南シナ海の海洋安全保障を含む、アジアにおける広域な地域安全保障につき議論を行った。ロガル外相は、EU・日本間の戦略的パートナーシップを歓迎し、地域の安全保障上の課題は、断固とした志を同じくするパートナー間の協力によってのみ解決できると述べた。同外相は、日本がインド太平洋地域へのビジョンを発展させているように、EUも同地域に対する共通のアプローチを形成しなければならないと述べたほか、伝統的な安全保障事案に加え、日本との間では、サイバー攻撃及びハイブリッド攻撃への対処及びAIを含めた新たな技術の使用に対する高い基準の設定等に係る緊密な協力の大きな潜在性があると述べた。

また、気候・エネルギー外交は、今秋にグラスゴーで開催予定のCOP26に向けた準備のため、本年の重要課題であるとして、ロガル外相は、特に気候変動による水への影響につき強調し、EUの対外政策において水関連問題への包括的アプローチを取るよう呼びかけた。ロガル外相は、本分野でのパートナー国との協力の重要性を指摘し、その関連で、スロベニアが本年後半のEU議長国期間中に重視する西バルカン・グリーンアジェンダにつき言及した。そのほか、非公式昼食会において、出席者は共通外交安全保障政策(CFSP)及び共通安全保障防衛政策(CSDP)における英国との協力の重要性を強調した。

なお、茂木大臣のEU外務理事会出席についての日本外務省の報道発表は以下のリンクから参照可能。  
[https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press1\\_000484.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press1_000484.html)

### 大手クラウドファンディングプラットフォームで 最も成功したスロベニアのプロジェクト “スマートバードフィーダー”

スロベニア人が中心のチームによって開発されているスマートバードフィーダーのプロジェクトである「Bird Buddy」は、世界的なクラウドファンディングのプラットフォーム「Kickstarter」で合計419万ユーロを集め、これまでで最も成功したスロベニアのプロジェクトになった。



(Photo: Kickstarter)

このプロジェクトは、マイク及びモーションセンサーが搭載された小型ビデオカメラを含む取り外し可能なモジュール、そしてフィードコンテナを備えたモダンなデザインの鳥の餌箱を開発するもの。

鳥の到着を検出すると、センサーはワイヤレス接続とモバイルアプリを使用してユーザーに通知し、ユーザーは間近で鳥の写真を撮ることができる。更に、人工知能を搭載したこのアプリは、1000種類以上の鳥を認識することができるほか、歌声により、種類を認識することもできる。また、このアプリは、鳥の写真を整理して共有することもでき、どの飼料がどの種類の鳥に適しているかについてのアドバイスも提供する。

様々な機能を有するスマートバードフィーダー「Bird Buddy」の生産は、2021年半ばに開始される予定で、同年9月までにはユーザーへの提供が開始されることが期待されている。

なお、「Bird Buddy」プロジェクトが現れるまで、「Kickstarter」においてスロベニアで最も成功したプロジェクトは、クラウドファンディングにより約57万ユーロを集めた電動自転車「Flykly」であった。

## 経済

### 【経済一般、指標・統計】

#### ●政府、新規国債を発行【5日】

5日、政府は新規の10年債を発行した。発行総額は17億5千万ユーロ。今回発行されたのは利回りがマイナス0.0096%の国債とゼロクーポン債で、財務省によるとスロベニアは建国以降初めてマイナス利回りの国債を発行した。また、政府は同時に2020年に発行した30年債につき、2500万ユーロ分の追加発行を行った。

また、27日、政府は1月に入って2度目の国債を発行した。今回は、総額5億ユーロで新規60年債。なお、これはスロベニアが発行した国債の中で最も償還期間が長いもので、同ユーロ債は、最終利回り0.70%、クーポンレートは0.6875%。

#### ●ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣、UAEを訪問【25日～26日】

ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、UAEを訪問した。25日、同大臣は、UAEのアフメド・アル・ジャベール産業最新技術大臣と会談し、両者は二国間協力に関し、一層促進の余地がある旨一致した。ポチヴァルシェク大臣は、スロベニアは、ハイテク、グリーンエコノミー、製薬、AI、ロジスティクス、保健、宇宙工学などの分野でUAEとの協力強化に関心がある旨述べた。また、同大臣は、ドバイ万博にスロベニア企業が積極的に参加して現地企業と商談を行うことで、新たな経済関係促進の機会が生まれると確信している旨述べた。

26日、ポチヴァルシェク大臣は、本年10月1日から2022年3月31日まで開催予定のドバイ万博のスロベニア・パビリオン引渡式典に参加した。式典において、同大臣は、新型コロナウイルスにかかわらず、ドバイ万博はスロベニア経済の促進及び世界との協力のための玄関口となるだろうと述べ、スロベニア・パビリオンは万博において真のグリーン・オアシスとなり、訪問者の多く関心を集めることになるだろうと述べた。



(Photo: Nebojša Tejić/ STA)

### 【企業、産業の動向】

#### ●リュブリャナ・コチャウイエ間鉄道、半世紀ぶりに再開【3日、5日】

3日、リュブリャナ・コチャウイエ間をつなぐ鉄道路線が1971年以降半世紀ぶりに開通した。最初の便に乗車したヴルトヴェツ・インフラ大臣は、同区間の鉄道路線の再開は、道路の渋滞を減らし、交通の安全性を高めるとともに、環境保護にもつながるものであると述べたほか、人の動きが活発化することで、リブニツァ及びコチャウイエ地方の経済及び観光の発展にもつながることを期待すると述べた。同路線は、平日に10～11便が運行され、リュブリャナ・コチャウイエ間の運行時間は、1時間10分から1時間25分が予定されている。一方、日刊ドネウニク紙は、5日、同路線が実際には平日6～7便しか運航されておらず、また、週末の運行はないため、同路線は実際には通勤者しか対象としていないと指摘したほか、途中のグロスプリェ駅では依然としてインフラが整っておらず、乗客は同駅で列車を乗り換える必要がある場合があり、また、乗り換え列車に約50分待ったケースがあると指摘した。



(Photo: Tamino Petelinšek/ STA)

#### ●2020年の新車登録数、27%減【5日】

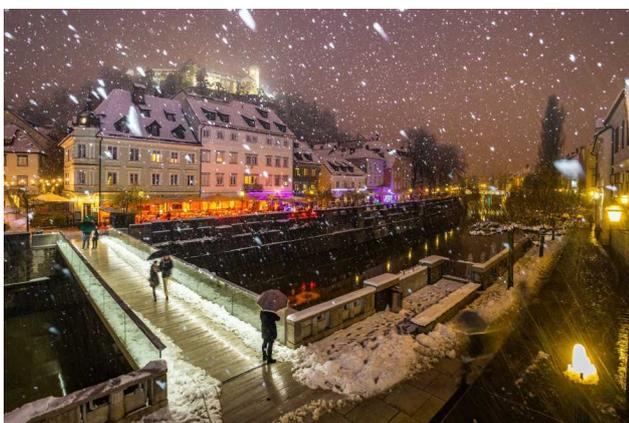
スロベニア商工会議所のデータによると、2020年の新車登録数は約53,700件で、前年比で26.6%減少したことが明らかになった。なお、最も登録数が多かったのはフォルクスワーゲンで8644台、次いでルノーの8391台、シュコダの5577台。また、車種別の登録数では、クリオ(ルノー)が3870台でトップとなり、オクタビア(シュコダ)、キャプチャー(ルノー)となった。

#### ●家電製造大手ゴレニェ社、テレビ工場稼働【7日】

家電製造大手ゴレニェ社は、工場におけるテレビ製造が段階的に稼働し、2月にフル稼働される旨発表した。同社によると、1月7日時点ですでに350名以上の従業員が働いており、1月末までに総勢520人となる予定。同工場に製造されるテレビは欧州市場向けで、ハイセンスブランドで販売される予定。

## ●リュブリャナ市、世界で最も持続可能な都市8選に選出【8日】

ロンリープラネット社は、世界で最も持続可能な都市8選を発表し、そのひとつとしてリュブリャナが選出された。リュブリャナは、住みやすさ、清潔さ、環境への配慮等が考慮され、欧州の都市で初めて廃棄物ゼロ目標を掲げ、最新の廃棄物管理システムにより2008年と比較して廃棄場に送られるゴミの量が8割削減された点及び10ヘクタールの市内中心部が歩行者天国となっている点等も評価されている。リュブリャナ市当局は、ロンリープラネット社による同記事や新型コロナウイルスワクチンの開発により、同市の観光業が復興することを期待するとコメントした。なお、リュブリャナ以外には、コペンハーゲン（デンマーク）、ポートランド（米国）、シンガポール、リスボン（ポルトガル）、ベンガルール（インド）、バンクーバー（カナダ）、サンフランシスコ（米国）が選出されている。



(Photo: Slovenian Tourist Board)

## 新型コロナウイルス関連情報

### ●1月31日時点におけるスロベニア国内の新型コロナウイルスの感染状況【31日】

1月31日時点において、スロベニア国内で新型コロナウイルスへの感染が確認されている人数は累計165,946名で、死者は計3,522名となっている。スロベニア国立公衆衛生研究所が発表している31日時点での地域別の累計感染者は以下となっている。

地域	感染者数
スロベニア中心部	38,976
ドレンスカ・ベラクライナ地方	13,605
サヴィンスカ地方	22,571
ポドラウスカ地方	25,430
ゴレンスカ地方	17,611
ポムルスカ地方	11,800
オバルノ・クラシュカ地方	6,167
ゴリシュカ地方	7,519
コロシュカ地方	6,703
プリモルスコ・トランスカ地方	3,500
ポサウスカ地方	7,427
ザサウスカ地方	4,477
その他調査中	160

### ●スロベニア医薬品庁による中国製抗原検査キットに対する特別調査【6日～8日】

6日、スロベニア医薬品庁は、昨年12月に保健省が「Majbert Pharm」社から購入した新型コロナウイルス抗原検査キットの有効性に係る特別調査を実施することを決定した。対象となっているのは、「Majbert Pharm」社が提供した中国製抗原検査キットで、ウェブポータル「Necenzurirano」は、いくつかのケースで同検査キットが誤って陽性反応が示した旨指摘したほか、また、リトマス紙がプレートから剥がれた状態で検査キットが納品されたケースもあると報じた。

7日、スロベニア医薬品庁は、リュブリャナで使用された中国製抗原検査キットの一部に不備があったため、対象検査キット内の綿棒の使用を一時的停止することを決定した旨発表した。同庁によると、リュブリャナ保健センターで行われた抗原検査において、製造者不明で製造ラベルが付随されていない滅菌綿棒が使用されていることが判明したとして、従って、同製品の今後の使用を禁止する一時的決定を下した。なお、使用禁止となるのは対象となっている綿棒のみ。リュブリャナ保健センターは、スロベニア医薬品庁による決定を受けて、抗原検査を一時中止した。同センターは、保健省及び関係機関からの許可及び適切な検査キットが得られ次第、抗原検査を再開予定であると発表した。

8日、リュブリャナ保健センターは、抗原検査を再開した。同センターは、サプライヤーの在庫にあった追加の検査キットを受け取ったとして、右検査キットは全てラベルが貼られているものであったと説明した。リュブリャナ保健センターのドウシェク所長は、抗原検査キットには2種類の綿棒が付いており、スロベニア医薬品庁はその内の咽頭用綿棒に関し不適切との決定を下したと述べ、対象となった綿棒は同センターでは1度も使用されていないと説明した。

### ●政府、ワクチン接種戦略を発表【12日】

12日、スロベニア政府は、新型コロナウイルスに関するワクチン接種に関する戦略文書を発表した。同戦略文書は、優先接種対象者として、①介護施設居住者とスタッフ及び医療関係者、②60歳以上の高齢者（80歳以上の者から供給量に応じて順に開始）、③癌、糖尿病等の既往症のある60歳以下の者、④教育関係者、警察・治安・軍関係者、農業関係者等、緊急・必須の業務に携わる者とする4グループを設定しており、また、すでに新型コロナウイルスに感染した者は最初の6か月は接種対象とはならない。また、接種は地域保健センター内のワクチン接種センターで行われ、センターの担当者やホームドクターが地域保健センターに必要なワクチン量を連絡するほか、高齢者については家での接種の選択肢もある。接種計画や接種場所は供給状況等によって要すれば変更していくとのこと。全てのワクチン接種については、記録が作成され、副作用等が出た場合には専門会委員会において検証が行われる。

### ●政府、流行宣言を再延長【13日】

13日、スロベニア政府は、新型コロナウイルス感染症の流行宣言を、1月17日から再度60日間延長した。流行宣言は2020年10月19日に発出されて以降、政府は2回延長を行っており、今回で3回目の延長となる。

### ●スロベニア、国内人口の約2%にワクチン接種を実施【20日】

国立公衆衛生研究所ワクチン接種プログラム調整官のヴィテク氏は、1月20日現在、国内で人口の約2%にあたる42,410名がワクチンを接種したと述べた。同調整官は、問題はワクチンの供給量が追いついていないことであると指摘し、そのような状況において、高齢者や医療従事者等の優先グループに接種を行うルールが順守されることが極めて重要であると述べた。

### ●スロベニアの接触確認アプリがアップデート【22日】

昨年夏に利用が開始されたスロベニアの新型コロナウイルス接触確認アプリ「#OstaniZdrav」がアップデ

ートされ、新たな機能が追加された。アップグレード版では、国外での追跡キーの入手が可能となったため、国外に出た際もその都度訪問国の接触確認アプリをダウンロードする必要がなくなったほか、新型コロナウイルスに関する政府ポータルや手話サイトへのリンクが追加されるなどの新たな機能が追加された。アップデート版は1月22日より利用が可能となっている。

### ●英国型変異種、国内で初めて感染を確認【24日、27日、29日】

24日、ヤンシャ首相はスロベニアにおいて初めて新型コロナウイルスの英国型変異種が確認された旨明らかにした。感染が確認されたのはベルギーから渡航してきたスロベニアに一時滞在資格を有するコソボ国籍者。

27日、国立保健・環境・食品研究所のチュレトニク所長は、過去2週間の陽性反応のサンプルからランダムに抽出した877件を検査したところ、16件の英国型変異種に酷似したウイルスが検出されたと発表した。今後、同サンプルは詳細な検査に回され、検査結果が出るまでに1～2週間かかる予定。

29日、ヤンシャ首相は、スロベニアは英国変異種の確認により、感染流行の第三波に入りつつある旨述べ、今後数週間は現在実施されている制限措置の大幅な緩和は見込めない旨述べた。一方、同首相は、ワクチン接種が進んでいることにも言及し、ワクチンの存在により、今回が最後の一波となることを期待すると述べた。

## 治安

### ●ツェリエでガス爆発事件が発生【8日】

8日昼12時30分頃、ツェリエ市内中心部に位置するバス中央駅で、ガス漏れが原因で爆発事故が発生し、3名が負傷した。エネルギー・ツェリエ社によると、ガス漏れはバス中央駅のガス管のバルブから発生したものと説明した。ツェリエ消防隊は、爆発により多くの窓ガラスが割れるなど物的損害が大きい旨述べ、中央駅全体の検査及び換気を行ったと述べた。



(Photo: STA)

## 社会・文化・スポーツ

### ●2021年の初生まれはポストイナの男児【1日】

ポストイナにおいて、2021年に入って初めて国内での出産が確認された。1月1日の午前1時前にポストイナの産科病院で生まれた男児は、ヴィドと名付けられ、出産時の体重は3900グラムであった。その5分後には、スロベン・グラデツツにおいて男児が生まれ、また、その1分後にはブレジツェで2021年最初の女児が誕生した。

### ●インフルエンザ、今冬は確認されず【3日】

昨年12月27日の段階で、この冬はスロベニアにおいて未だ1件もインフルエンザが確認されていない。一方、保健関係者は、新型コロナウイルスの影響で、インフルエンザの検査が後回しになっているために、検査が十分に行われていないことがその原因となっている可能性があるとしている。なお、他の欧州諸国の大半でも未だインフルエンザは確認されていないとのこと。

### ●スキージャンプ団体のスロベニア女子代表チーム、W杯初優勝【23日】

リュブノで開催されたスキージャンプ女子W杯の団体戦において、スロベニア代表チームが優勝した。エマ・クリネツ、シュペラ・ロゲリ、ウルシャ・ボガタイ、ニカ・クリジュナルの4選手で構成された女子代表チームは1064.8ポイントを獲得し、1046.9ポイントのノルウェー、1029.9ポイントのオーストリアを振り切って優勝した。2019年、2020年に同じリュブノで開催されたW杯で、スロベニア女子代表はともに2位となっており、今回、地元で悲願の初優勝となった。なお、日本代表チームは989.6ポイントで4位であった。



(Photo: Slovenian Ski Association)

## 2020年の「人」と「言葉」

いずれも新型コロナウイルス関連がを選出

### ◆デロ紙、2020年パーソンオブザイヤーを選出【6日】

日刊デロ紙は2020年のパーソンオブザイヤーに、国立公衆衛生研究所感染症センター長のマリオ・ファファンゲル氏を選出した。



(Photo: The Slovenian Times)

同紙は、ファファンゲル氏は一流の疫学専門家であり、感染症流行という状況において国民に辿るべき道筋を示したことを選出の理由として挙げた。デロ紙のブドヤ編集長は、ファファンゲル氏は、遠回しな表現を避けつつ状況が芳しくないことを指摘する一方で、困難の先には必ず希望がある旨を現実的で冷静な口調で国民に説明したと評価した。

デロ紙は2020年のパーソンオブザイヤーの候補者をまず12名選び、その中から最終審査を行い、ファファンゲル氏が受賞することになった。

### ◆2020年の「ワードオブザイヤー」は「隔離」に決定【11日】

スロベニア科学技術アカデミー(SANU)は2020年のワードオブザイヤーを発表し、「隔離(quarantine)」が選出された。なお、2位には政府への抗議デモ参加者が自転車に乗って抗議を行ったことから「サイクリング」、3位には隔離期間として指定された「14日」が選ばれた。SANUによると、「隔離」は以前からある言葉であるが、2020年に再び頻繁に使用されることになったとして、この言葉は隔離期間としての「40日」を意味するイタリア語の「quaranta giorni」に由来し、1377年に今日のクロアチアのドブロブニクで導入され、その後、その他の港でも知られるようになったとのこと。また、同アカデミーは2020年の手話大賞も選出し、1位に「新型コロナウイルス」、2位にウェブ会議サービスの「Zoom」、3位に2020年に生誕250周年を迎えた「ベートーベン」が選ばれた。

## スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: [info@s2.mofa.go.jp](mailto:info@s2.mofa.go.jp)

Web: [http://www.si.emb-japan.go.jp/website\\_jp/index\\_j.html](http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html)

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

[info@s2.mofa.go.jp](mailto:info@s2.mofa.go.jp)

### ★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

### ★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧ください。

[http://www.si.emb-japan.go.jp/Living\\_in\\_Japan.html](http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html)

### 【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●新型コロナウイルス:引き続き最新情報を入手し、感染予防に努めてください。当館HPでは、新型コロナウイルスに関する国内及び出入国規制等についてまとめたものを公開していますが、そちらもご覧ください。なお、規制は突然変更となる場合がありますので、最新情報についてはスロベニア当局にご確認いただくようお願いいたします。

### 【当館まとめページリンク】

[https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr\\_ja/11\\_000001\\_00037.html](https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00037.html)

### 【参考情報】

#### 1. 外務省海外安全ホームページ

本サイトでは、各国・地域での新型コロナウイルスの発生状況、新型コロナウイルス(日本からの渡航者・日本人に対する各国・地域の入国制限措置及び入国・入域後の行動制限)等の情報を掲載しています。

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

#### 2. たびレジ簡易登録

本サービスは、メールアドレスとメール配信を希望する国・地域を選択するだけで、当該在外公館から領事メールを受信することができます。ぜひご活用下さい。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/simple/register>

3. スロベニア国立公衆衛生局は、国内状況や感染予防の方法等について公開しています。

<https://www.nijz.si>

(主にスロベニア語)

4. スロベニア政府が、新型コロナウイルスに関する特設サイトを開設しました。コロナウイルスに関連した保健省の特設電話番号はこちらに掲載されています。

<https://www.gov.si/en/topics/coronavirus-disease-covid-19/>

5. 新型コロナウイルス感染症に備えて ～一人ひとりができる対策を知っておこう～(首相官邸)

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html>

6. 新型コロナウイルス感染症に関する情報について(厚生労働省)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html)

7. リュブリャナ空港ホームページ

<https://www.fraport-slovenija.si/en/Main>

8. スロベニア政府の下記のツイッターアカウント等で、随時情報発信が行われておりますので、こちらをご確認ください。

- 政府(英語) : <https://twitter.com/govslovenia>
- 政府(スロベニア語) : <https://twitter.com/vladars>  
(英語版と若干内容が異なります。)
- 外務省 : <https://twitter.com/mzzrs>  
(主にスロベニア語)
- 保健省 : <https://twitter.com/minzdravje>  
(主にスロベニア語)

**【広報文化班からのお知らせ】**

- 最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia/>